



TITLE:

系統研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

野上, 裕生; 瀬戸口, 烈司; 相見, 満

CITATION:

野上, 裕生 ...[et al]. 系統研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1992, 22: 34-35

ISSUE DATE:

1992-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164398>

RIGHT:

- (1991): DNAフィンガープリントによる父子判定の野生霊長類への応用. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 144.
- 4) 針原伸二・清水宏次・竹中 修 (1991): マカ属サル β グロビン遺伝子領域における制限酵素部位変異の解析. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 145.
 - 5) 竹中晃子・竹中 修 (1991): カニクイザル α -グロビン遺伝子の遺伝子変換. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 146.
 - 6) 竹中 修・高崎浩幸・川本咲江・竹中晃子 (1991): 野生チンパンジーの父子解析の試み. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2): 146.
 - 7) 竹中 修 (1991): DNA多型解析による霊長類の父子判定. 第15回個体群生態学会シンポジウム (広島). 1991年11月2~4日.
 - 8) 景山 節 (1991): 胃粘膜カテプシンEの構造と機能および発生における発現の変化. 第64回日本生化学会大会. 生化学, 63: 686.
 - 9) 塚田真子・一瀬雅夫・三木一正・松嶋成志・黒川 清・高橋健治・景山 節 (1991): 胃粘膜における酸性プロテアーゼ (ペプシノゲン及びカテプシンE) 遺伝子発現調節の検討. 第64回日本生化学会大会. 生化学, 63: 685.
 - 10) 景山 節 (1991): ペプシノゲン酵素群の構造と発生における発現の変化. 第62回日本動物学会大会. Zool. Sci., 8: 1140.
 - 11) Nakamura, S., Mizuguchi, J., Nozaki, C., Hamada, F., Goto, A., and Funatsu, A. (1991): VII Binding domain of tissue factor, XIIIth Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (Amsterdam), Thrombosis and Haemostasis, 65, 1216.
 - 12) Nakamura, S., Goto, A., Takemoto, S., Mizuguchi, J., and Funatsu, A. (1991): Monoclonal antibodies to human tissue factor, XIIIth Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (Amsterdam), Thrombosis and Haemostasis, 65, 1216.
 - 13) 中村 伸・峰沢 満・後藤俊二・橋本道子・和 秀雄 (1991): ニホンザルにおけるスギ花粉自然感作の特徴. 第41回日本アレルギー学会. アレルギー, 40 (8): 981.
 - 14) 後藤俊二・橋本道子・横田 明・中村 伸 (1991): ニホンザルを用いたスギ花粉アレルギーの実験モデル. 第41回日本アレルギー学会. アレルギー, 40 (8): 981.
 - 15) 近藤正樹・三浦 徹・稲垣直樹・永井博弼・江田昭英・中村 伸・橋本道子・大黒道夫 (1991): 摘出サル気管平滑筋のアレルギー性メディエーターに対する反応性について. 第41回日本アレルギー学会. アレルギー, 40 (8): 1057.
 - 16) 今村隆寿・中村 伸 (1991): マクロファージの発現する組織因子と遅延型過敏反応について. 第14回日本血栓止血学会. 日本血栓止血学会誌, 2 (5): 390.
 - 17) 中村 伸 (1991): ヒト tissue factor の VII/VIIIa 結合部位. 第14回日本血栓止血学会. 日本血栓止血学会誌, 2 (5): 396.

系統研究部門

野上裕生・瀬戸口烈司・相見 満

研究概要

1) 霊長類の歯の組織学的研究

野上裕生・相見 満

歯のエナメル質にみとめられる成長の周期を吟味し、従来の5~7日周期の不合理性を指摘した。

2) インドネシアにおける第四紀霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生および化石霊長類の系統・進化・分類について、詳細な研究をおこなった。

3) 南アメリカにおける第三紀霊長類の研究

野上裕生・瀬戸口烈司・高井正成¹⁾

コロンビア国を中心に、中新世の地層の発掘調査がおこなわれ、保存良好な歯が多量に発見され、その系統的記載がなされている。

4) 北アメリカにおける中生代哺乳類の研究

瀬戸口烈司

アメリカ合衆国モンタナ州の白亜紀の地層で発掘調査を実施した。恐竜化石は多量に発見できたが、哺乳類化石はまだ発見できていない。

5) 南アメリカにおけるティティ属の形態学的

1) 大学院生

研究

小林秀司¹⁾・野上裕生

ティティ属の歯の形態に着目し、属内種間変異とその進化的傾向を解析した。

論文

- 1) Aimi, M., Gotoh, S., and Nogami, Y. (1991) : Initial calcification of the upper permanent incisor in Japanese macaques. *Primates*, 32 (1) : 265-268.
- 2) Aimi, M. and Nogami, Y. (1991) : Dental incremental markings in enamel of Japanese macaques. In : *Primate Today* (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 455-458, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
- 3) 近藤信太郎・茂原信生・今村基尊・瀬戸口烈司・永井廣 (1991) : コロブスモンキーの歯列弓と歯の形態学的研究. *成長*, 30 (1) : 17-28.
- 4) Setoguchi, T. (1991) : Preliminary Report of Newly Discovered Upper Dentition of *Neosaimiri* and Related Form from the Miocene of Colombia, South America. In : *Primate Today* (eds. by Ehara, A., Kimura, T., Takenaka, O., and Iwamoto, M.), pp. 527-530, Elsevier Science Publishers, Amsterdam.
- 5) Rosenberger, A. L., Setoguchi, T., and Hartwig, W. C. (1991) : *Laurentia annectens*, new genus and species : Fossil evidence for the origins of callitrichine New World monkeys. *Proc. Natl. Acad. Sci.*, 88 (4) : 2137-2140.
- 6) Rosenberger, A. L., Hartwig, W. C., Takai, M., Setoguchi, T., and Shigehara, N. (1991) : Dental variability in *Saimiri* and the taxonomic status of *Neosaimiri fieldsi*, an early squirrel monkey from La Venta, Colombia. *Int. J. Primatol.*, 12 (3) : 291-301.
- 7) Takai, M., Setoguchi, T., Villarroel, C.

A., Cadena, A. G., and Shigehara, N. (1991) : A new Miocene molossid bat from La Venta, Colombia, South America. *Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Geol. Mineral.*, 56 : 1-9.

- 8) 瀬戸口烈司 (1991) : 形態変異のとらえかた. 「講座 進化 : 第3巻, 古生物学からみた進化」(柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編), 東京大学出版会, 東京 : 171-195.

報告・その他

- 1) 瀬戸口烈司 (1991) : 「図説 哺乳類の進化」(訳, ボブ・サベージ著), テラハウス, 東京.
- 2) 瀬戸口烈司 (1991) : 恐竜ブームの中で……学生たちはモンタナをめざした. *サイエンス*, 1991-11 : 12-15.
- 3) 瀬戸口烈司 (1991) : サルの祖先は誰か. *アニマ*, No. 231 (12. 1991) : 68-69.
- 4) 瀬戸口烈司 (1991) : 南米の中新世のサルたち. *モンキー*, 35-3・4 : 24-28.
- 5) 瀬戸口烈司 (1992) : 野生のサル類にみられるディスクレパンシー. *デンタルハイジーン*, 12-1 : 43-58.
- 6) 瀬戸口烈司 (1992) : 化石にみるヨーロッパの新生代の哺乳類 (訳, G・ストルク著) *サイエンス*, 1992-4 : 76-83.
- 7) Aimi, M. and Nogami, Y. (1990) : Periodicity of perikymata formation in primates. *人類誌*, 98 : 202.
- 8) 相見 満 (1991) : 学名の話 (7) 「サル目」は適当か. *モンキー*, 237 : 11-13.
- 9) 相見 満 (1991) : 学名の話 (8) タイプ標本. *モンキー*, 238 : 14-15.
- 10) Aimi, M. (1991) : Book review for R. D. Martin : *Primate Origins and Evolution, a phylogenetic reconstruction*. Chapman and Hall, London, 1990, 804 pp. *Primates*, 32 : 409-410.
- 11) 相見 満 (1991) : 学名の話 (9) 「種小名」について. *モンキー*, 239. 240 : 23.
- 12) 相見 満 (1991) : 学名の話 (10) 学名は不必要か. *モンキー*, 241 : 13.